

古町芸妓新聞

発行元

大正時代
社会
現代
新メディア
青陵
新潟
学芸
とメ
ディ
ア
Tさん

若者向けイベント多彩に



料亭文化広がる魅力

新潟市には、江戸時代後期から明治時代中頃まで全国屈指の花街として大きく繁栄した料亭文化が存在する。老舗の料亭や街並みがあり、そこでは街を彩る古町芸妓たちが活動している。しかし現在、客層の高齢化などにより、若者にとって料亭文化は馴染みが薄いものとなってしまっている。そのような逆風の中、料亭文化を保護するためにどのような活動が行われているのかを紹介していく。

現代の若者は花街や芸妓遊びに興味が薄く、「敷居が高い」といったイメージを持っており、四季折々の食材を使った食事や日本酒の飲み比べ、古町芸妓の成り立ちの説明などを、通常の価格の半額以下で体験できる。先着制であるこの催しは、第1回はすでに満席となっており、若い世代への周知を旨とする古町花街にとって

新潟市には、江戸時代後期から明治時代中頃まで全国屈指の花街として大きく繁栄した料亭文化が存在する。老舗の料亭や街並みがあり、そこでは街を彩る古町芸妓たちが活動している。しかし現在、客層の高齢化などにより、若者にとって料亭文化は馴染みが薄いものとなってしまっている。そのような逆風の中、料亭文化を保護するためにどのような活動が行われているのかを紹介していく。

現代の若者は花街や芸妓遊びに興味が薄く、「敷居が高い」といったイメージを持っており、四季折々の食材を使った食事や日本酒の飲み比べ、古町芸妓の成り立ちの説明などを、通常の価格の半額以下で体験できる。先着制であるこの催しは、第1回はすでに満席となっており、若い世代への周知を旨とする古町花街にとって

古町芸妓の発祥は、約200年前の江戸時代まで遡る。その頃の新潟は北前船の拠点として賑わい、多くの人々が交流するまちだった。そこにやがて花街が生まれ、訪れる人々を歌や踊り、美味い食事で魅了する。最盛期には約400人の芸妓が活動し、花街を賑わせていた。明治・大正の時代になってもその勢いが衰えることはなかったが、昭和時代、戦争は花街にも影を落とした。太平洋戦争の開戦により花街や芸妓はやむなく休業し、芸妓連や女子挺身隊員として作業に従事することとなった。戦後



古町芸妓は活動再開したが、芸妓の人数や芸妓希望者の減少や後継者不足により

古町芸妓の発祥は、約200年前の江戸時代まで遡る。その頃の新潟は北前船の拠点として賑わい、多くの人々が交流するまちだった。そこにやがて花街が生まれ、訪れる人々を歌や踊り、美味い食事で魅了する。最盛期には約400人の芸妓が活動し、花街を賑わせていた。明治・大正の時代になってもその勢いが衰えることはなかったが、昭和時代、戦争は花街にも影を落とした。太平洋戦争の開戦により花街や芸妓はやむなく休業し、芸妓連や女子挺身隊員として作業に従事することとなった。戦後

古町芸妓の発祥は、約200年前の江戸時代まで遡る。その頃の新潟は北前船の拠点として賑わい、多くの人々が交流するまちだった。そこにやがて花街が生まれ、訪れる人々を歌や踊り、美味い食事で魅了する。最盛期には約400人の芸妓が活動し、花街を賑わせていた。明治・大正の時代になってもその勢いが衰えることはなかったが、昭和時代、戦争は花街にも影を落とした。太平洋戦争の開戦により花街や芸妓はやむなく休業し、芸妓連や女子挺身隊員として作業に従事することとなった。戦後

古町芸妓の発祥は、約200年前の江戸時代まで遡る。その頃の新潟は北前船の拠点として賑わい、多くの人々が交流するまちだった。そこにやがて花街が生まれ、訪れる人々を歌や踊り、美味い食事で魅了する。最盛期には約400人の芸妓が活動し、花街を賑わせていた。明治・大正の時代になってもその勢いが衰えることはなかったが、昭和時代、戦争は花街にも影を落とした。太平洋戦争の開戦により花街や芸妓はやむなく休業し、芸妓連や女子挺身隊員として作業に従事することとなった。戦後

200年の歴史と伝統

後継者不足解消へ尽力

誇りある伝統継承へ
若者に託される文化

新潟の伝統的な文化の一つである古町芸妓。しかしその文化は若い世代に浸透していないのが現状である。新潟市に住んでいる若者でも芸妓について詳しく知る人は多くはなく、市外ともなれば古町芸妓の存在すら見られ、新潟市や商議所も周知に力を入れている。

コロナ禍での接待やイベントの著しい減少という厳しい時期を超えた今、古町

花街は今後も存続していくのか大きな岐路に立たされている。街には徐々に人の数も戻りつつあり、芸妓も様々なイベントに関わる機会が多くなった。しかしそれは最盛期に比べて微々たるものであり、かつて肩を並べた浅草、京都と比べればどうしても見劣りしてしまうものだ。

江戸から大正ごろの新潟を支えてきた花街文化。素晴らしいこの文化を存続していくには、私たち若い世代にかかっているとも言える。古町芸妓について学ぶこと、花街について発信すること、どれも古町芸妓や古町花街の伝統を守るために大切なことである。芸妓文化のみに限らず、新潟の古く良き文化を知り、繋げていくことは、新潟で生きる若者の使命なのではないだろうか。

の深い古町芸妓の保護・育成のため、補助金を交付している。商議所や新潟市は小・中学生向けに芸妓の紹介も行っており、若者への周知を旨としている。20

芸妓遊びや花街と言え、接待などに使われることから5〜60代の男性客が多いという印象を持つ人は多い。しかし現在では女性のようにこれまで見られなかった客が花街を訪れることもある。

新しい客層が増えている理由の一つとして、比較的低価格で利用できる芸妓や店が増えていることが挙げられる。近年花街では利用

者が高齢化、若者への周知不足が問題となっており、そういった問題への対策として安価に芸妓遊びを体験できる機会は増えているのだ。そのような取り組みが広がることにより、花街は男性だけのものではないという認知が広まり、女子会や夫婦だけの利用は増えている。

花街に集まるのはお金持ちの奥様だけではない。古町芸妓は活動再開したが、芸妓の人数や芸妓希望者の減少や後継者不足により

芸妓文化 カジュアルに体験
「女子会」を花街で

古町芸妓は活動再開したが、芸妓の人数や芸妓希望者の減少や後継者不足により